

論文審査の要旨

報告番号	修 第 3 4 号	氏 名	川畑 啓
論文審査担当者	主 査 教 授 志 水 宏 行 副 査 教 授 鈴 木 憲 雄 副 査 准教授 榎 田 め ぐ み		
(論文審査の要旨)			
学位論文審査の結果の要旨 日本において障害者雇用率制度は 1960 年から始まった。先行研究より障害者にとって障害を開示する利点や欠点、悩みが生じることは報告されているが、自閉スペクトラム症者（以下、ASD 者）がどのようなプロセスを経て障害を開示して働くことを決めるに至ったか調査されたものは見当たらない。 学位申請者、川畑 啓 は、ASD 者の障害者雇用として働くに至るまでの思いを明らかにすることを目的とし、昭和大学附属烏山病院に通院中の方で ASD の診断を受けており、言語的コミュニケーションが可能で、同意取得時に障害者雇用として働いている方を対象とし、インタビューガイドを用いて面接を実施した。語られた内容は IC レコーダによる録音及び筆記により記録を行い、データの分析は質的帰納的分析を行った。その結果、5 名のデータを分析し、13 のサブカテゴリ、8 のカテゴリ、4 のコアカテゴリが生成された。コアカテゴリは【企業側から配慮が得られる】、【置かれている状況と自分の能力との合致】、【障害者雇用に関する個人的価値観】、【後押しを受けながら就労へ向けて取り組む】にまとめられた。 学位申請者、川畑 啓 の研究は、ASD 者が障害者雇用として働くことを選択した理由として、障害者雇用の基本的な条件となる【企業側から配慮が得られる】ことを求めていたこと、過去の[苦労の経験]を振り返り[自分の能力との合致]させ、自己理解を深め、[家族への配慮が不必要]と自身の周囲の状況も鑑み、【置かれている状況と自分の能力との合致】した結果、障害者雇用を選択していたこと、さらに、【障害者雇用に関する個人的価値観】として、[障害者雇用の方が気楽]と本人の仕事に対する価値観や、[障害者であるため障害者雇用で働くのが筋]であると ASD 特有の思考認識も影響していたことを明らかにした。さらに、障害者雇用として働くにあたり、〈体験就労を経験〉することで障害者雇用の働き方に対するイメージが作られ、〈とりあえず行動してみる〉ことで[就労へ向けた行動]をとり、さらに〈支援者や支援機関からの働きかけ〉により【後押しを受けながら就労へ向けて取り組む】結果、障害者雇用を選択していたことを示した。その上で、支援者は本人の仕事に対する思いや価値を明らかにして、納得して自己決定が出来るような関わりを持つことが重要であると考えられた。したがって、本論文は修士(保健医療学)の学位に値すると判断した。			